



中の  
川よ  
荒だ

青い雲



教育目標「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」  
目指す学校像：「笑顔とハートのある学校」  
(熱いハート、温かいハート、柔らかいハート)

村上市立荒川中学校  
令和元年度第7号  
令和元年9月13日発行

## 体育祭から学習の充実へ

九月も半ばですが、暑さが続きます。今月七日、令和になって初めての体育祭が行われました。

練習は雨天により、前半は屋内中心でした。体育祭の直前は猛暑でしたが、グラウンドで競技や応援の練習では、生徒たちは寸暇を惜しむように一生懸命に取り組みました。当日は好天に恵まれましたが、熱中症を心配するほどの酷暑でした。

競技の各学年団体種目では、学年委員が工夫して考えた種目の『三年借り人伝説』、『二年障害物リレー』、『二年五色綱引き』を楽しく行いました。学年別の『全員リレー』では、各クラスが作戦や団結力を見せ、全員でバトンをつなぎました。団体種目では、戦を思わせるような知略と激しい闘いが繰り広げられた『男子騎馬戦』。生徒が密集し、奪うものが見えなくなるほど迫力があつた『女子タイヤ取り』。全校種目の『竹棒大旋回』では、素早さと巧みさが勝敗を分けました。最後の『選抜リレー』では、逆転をかけ各連合の精鋭たちが全力で駆け抜けました。

応援では赤、緑連合ともに、一糸乱れぬパフォーマンスで、観衆を魅了しました。短い練習でよくまとめ上げました。

閉会式、解団式では勝敗はついたものの、両連合とも精一杯戦った充実感で、お互いを称え合う姿があり、感動を呼びました。正に、ラグビーでいうところのノーサイド（敵味方なく、お互いが仲間である）でした。

今年度の体育祭は、特に熱中症が心配されました。しかし、終わってみれば、熱中症も大きな怪我もなく、見る側にとつても楽しく素晴らしいものでした。生徒には、自らの体調を管理し、それを維持して体育祭に参加することを考えてもらいました。そのため、ご家庭には睡眠時間（就寝時刻）・朝ご飯・スポーツドリンクの三点を繰り返しお願いしました。ご家庭でも、十分配慮してもらい、生徒は元気に登校しました。その結果、無事に立派な体育祭ができました。心からご家庭の皆様にご感謝いたします。ご家庭から生徒の心身に十分なエネルギーを充電してもらったおかげで、生徒は大きな力を発揮できることを実感しました。

運動でも、勉強でも心と体の準備が大きな成果を上げることにつながります。これからは学習の充実期に入ります。お子さんの学校生活について、思いやりある言葉がけ、必要なものを準備すること、配慮等、安心して学校生活に全力を注ぐことができるように、これからもご協力をお願いいたします。

校長 渡辺 安治